

海外渡航に必要なワクチンと検査について

『厚生労働省検疫所の FORTH・海外で健康に過ごすために』というホームページ（2022.10 参照）には、このように記載されています。これは罹り易い病気のご案内です。目的に合わせて必要なワクチンを選択します。

予防接種	対象 https://www.forth.go.jp/useful/vaccination.html (2022.10.21)
黄熱	感染リスクのある地域に渡航する人 入国に際して証明書の提示を求める国へ渡航する人
A 型肝炎	途上国に長期(1 か月以上)滞在する人、特に 60 歳以下
B 型肝炎	血液や体液に接触する可能性のある人
破傷風	冒険旅行などでけがをする可能性の高い人
狂犬病	イヌやキツネ、コウモリなどの多い地域へ行く人で、特に近くに医療機関がない地域へ行く人。動物研究者など、動物と直接接触する人
ポリオ	流行地域に渡航する人
日本脳炎	流行地域に長期滞在する人(主に東南アジアでブタを飼っている農村部)
麻疹風しん	海外へ渡航しない人も含めて、すべての人
髄膜炎菌	流行地域に渡航する人、定期接種実施国へ留学する人

実際の渡航ワクチンのうち方には、いろいろな条件を加味して安全で適切な計画を立てて要領よく進めて行きます。渡航に際しては英語表記の予防接種記録を持参ください。

《選択要件》

①年齢,②渡航先,③滞在期間,④準備期間,⑤渡航目的,⑥接種記録,⑦本人と企業の認識・理解度

《接種ワクチンのコメント》

A 型肝炎；食事や水で感染する。北米・西欧・北欧・豪州などの先進国では通常不要。途上国への出張などがある人は推奨する。

B 型肝炎；長期滞在者には先進国でも必要。血液・体液だけでなく激しいスポーツで汗からも感染する。

破傷風；単独トキソイドは海外では要求されていない。破傷風を含んだワクチン（DPT3 種混合、DPT-IPV4 種混合、Tdap）の適切な使い分けが必要。日本人は百日咳の免疫が下がっているし、アジアでジフテリアの流行も伝えられているので、3種（4種）混合での追加接種が不可欠。単独は昭和 43 年以前の生まれで、途上国へ行く人のみに接種している。破傷風は怪我をした時の治療ワクチンである。

狂犬病；哺乳類に咬まれてから発病を防ぐために 5 回接種する。都市部滞在なら不要。よほどの郊外での作業、または特殊な行動をする研究者以外は事前の接種は不要。希望なら 3 回の基礎免疫（1 週間後と 3 週間後）が完了して渡航する。2 回では効果は全くない。海外での咬傷には緊急受診と曝露後接種が必須。

ポリオ；インド周辺、中東・アフリカ中央部への渡航には追加する。米国留学には 3・4 回目まで必要。

日本脳炎；アジア〔東・南・南西〕、特に中国・インド・インドシナが常在流行地。1-2 回接種が必要。

腸チフス・4 価髄膜炎・ダニ媒介性脳炎；輸入ワクチンであり、渡航地域とその環境で接種を検討する。

麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査；近年の国内流行は、ほぼアジアからの輸入であり、先進国でも流行しているため、自分の免疫を確認して不足分を追加して行く。検査しないでの追加は無駄ばかりである。

マラリア・高山病対策；ワクチンはないので、必要に応じて予防薬を処方する。